

苫小牧市立清水小学校学校だより

清水の子



『未来を創造する
清水の子の育成』

◇学びを広げる子
◇思いやりあふれる子
◇たくましさみなぎる子

第4号 令和2年6月25日発行

TEL 33-7285
simizu-es1@hokkaido.school.ed.jp

今だからこそ育みたい「こころ」



校長 堀田 稔

この一か月間、子ども達は「新生活様式」の中で、学校生活を充実させようと、前向きな姿勢で、日々、学習や活動に取り組んでいることをとてもうれしく感じています。

例年でしたら6月、北海道は運動会の季節です。この時季に子ども達は多くの人々に声をかけられ、自分の成長を実感して、達成感を持ったり、友達と努力を認め合ったりして、体も心も大きく成長していることを自分自身も周りの人々も実感できる時なのですが、今年は実施できず、大変申し訳なく思っています。

バーチャルやICTだけではなく、実体験で子ども達を育てていくことが、とても重要であること、何倍も学びが身につくこと、が言われていますが、今の環境を前向きにとらえ「心」を育てていくことについて、多くの方がご存知かと思いますが、改めて考えてみました。

* 「ほめる」の今と昔

江戸時代まで日本は、ほめると人は高慢になってしまうので、ほめることは愚かなことだ。と教育されていたそうです。また近年まで、手土産を渡す時に「つまらないものですが」「お口汚して」などと謙遜することが礼儀であり、それが普通の言い方でした。その日本の伝統も大事ですが、今は人間の心もいろいろな研究がなされ、「返報性」「ピグマリオン効果」などのほめる効果、ほめることの大切さが多く言われ、教育的効果が高いことも実証されています。

* 「ほめる」言葉

いろいろな場面で「ほめる」ことがあります。『頑張ったから』『できたから』『進歩したから』でほめるのは「条件付きのほめ言葉」であり、その時はとてもいいのですが、すぐ忘れ去られるとともに、心に残らず、かえって誤解を生んだりもするほめ方だそうです。『生まれてきてくれてうれしい』『一緒にいてうれしい』『あなたの〇〇大好きだ』『あなたが宝物』『あなたの笑顔が大好き』『あなたといると楽しい』などの「無条件のほめ言葉」は安心感を与えるとともに、自己肯定感を高め、あらゆることに効果が高いといわれています。

* 「ほめる」を意識する。

「ほめる」言葉選びがとても重要なことは皆さんもご存知だと思いますが、よいといわれている言葉は「YOUメッセージ」ではなくて「Iメッセージ」。自分にとってどうだったかという言葉のようです。また、相手の話をきちんと聞いて応答することも、「ほめる」ことと同じ効果があるといわれています。やはり今の時代は、意識して言葉を選び、行動することが「ほめる」につながり、よりよく子ども達を育てていけることになると考えられます。

子ども達には、ほめられ「感謝される喜び」を味わうことにより、自ら進んで行動して、「自分を大切にでき、他者も大切にできる大人」に育ててほしい。と願っています。そのためにも今後さらに職員と子ども達がコミュニケーションを図りながら、感謝される喜びを味わわせるよう意識して教育活動を進めていきたいと考えています。もうすでに行っていることとは思いますが、ご家庭でこれからも「無条件でほめる」を意識した子ども達とのかかわり方へのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。私も言葉を使う難しさを日々実感しています。